

<b>特別活動の指導法</b>		<b>教授 平沢 信康</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>教職科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>25200303</b>

### 1. 授業のねらい・概要

学校は諸教科のみを教える場ではない。現代日本の学校には、学級活動や生徒会活動および学校行事といった特別活動のカリキュラムが組み込まれている。特別活動は、学校における様々な集団での活動を通じて課題の発見・解決を行い、よりよい学校生活の実現と生徒の自己実現をめざして行われる活動の総体である。

本科目では、学校教育における特別活動の意義と目標および内容について理解し、教育課程上の位置づけを確認する。また特別活動の歴史の変遷や内容種類などをも理解したうえで、特別活動の指導方法や課題について考察する。

### 2. 授業の進め方

基本的には『中学校学習指導要領 解説 特別活動編』の読み合わせをして通読する。受講生を順次指名し、音読させて、熟読しつつ適宜、解説を加える。重要ポイントについては、ときに口頭試問して理解の定着を確認する。

受講者には特別活動の被教育体験を発表してもらい、全員で経験を分かち合う。また具体的な教育実践を扱った画像資料や文献などを紹介し、その内容について受講者間で感想を述べあう時間も設ける。

さらに実践案を企画させ、自ら構想筆記した指導案を発表する。

### 3. 授業計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動とは何か―その目標と主な内容</li> <li>2. 特別活動の歴史</li> <li>3. 特別活動と各教科との関連性</li> <li>4. 特別活動の目標と生徒指導との関連性</li> <li>5. 特別活動と道徳教育との関連性</li> <li>6. 特別活動における教師の専門性</li> <li>7. 特別活動の人間形成の意味</li> <li>8. 生徒会活動の特質と指導</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 学級活動とホームルーム活動 ― 学級づくりの方法</li> <li>10. 学校行事の特質と指導</li> <li>11. 家庭・地域住民や関係機関との連携</li> <li>12. 話し合い活動と集団活動</li> <li>13. 特別活動の評価と改善活動</li> <li>14. 指導案の作成と発表</li> <li>15. 指導案の検討および改善</li> </ol>
--	--

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

参考文献をはじめ本講義に関係する書籍について、大学図書館の蔵書などにあたって予習復習（各1時間）する。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

順次発表された指導案に対して、個別にコメントとアドバイスを与え、参考に供する。

### 6. 授業における学修の到達目標

特別活動の意義を理解したうえで、人間関係形成・社会参画・自己実現といった3つの視点を具えた指導力を身に付ける。

加えて、学年の違いによる活動の変化や各教科等との往還的な連関性を把握し、地域住民や他校等の教職員と連携した組織的な対応ができるよう、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を培う。

### 7. 成績評価の方法・基準

ミニレポート（20%）、指導案の発表内容と態度（30%）、音読の質（発声の明晰性やリズム）・取り組みの積極性・授業への貢献度（50%）

### 8. テキスト・参考文献

テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』（東山書房，平成 30 年 3 月）

参考文献：山口満・安井一郎編『特別活動と人間形成』（学文社，平成 22 年）

渡部邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編『特別活動指導法 改訂版』（日本文教出版，平成 29 年）

#### **9. 受講上の留意事項**

中学校及び高等学校の被教育体験のうち，特別活動について可能な限り鮮明に思い出してメモしておくこと。

学校行事など時と場所に相応しい音楽の利活用についても思いを巡らせておくこと。

なお本科目は前期集中講義であり，受講者は，夏期に伊勢崎キャンパスにおいてスポーツ健康マネジメント学科向けに開設される同名の授業に参加するかたちになる。